

奄美市立朝日小学校

研究公開

子ども一人一人を光り輝く“あさひっ子”に

～成就感・達成感を味わい主体的に運動に取り組む子どもの育成を目指して～

研究の仮説

〈仮説1〉
技の構造をもとにして、子ども一人一人に自分の動きの課題に気付かせるとともに、見通しをもたせながら、友達と積極的に学び合わせるならば、成就感や達成感を十分に味わわせることができるのではないか。

〈仮説2〉
子ども一人一人に運動目標をもたせ、日常的に運動や遊びに取り組む機会や環境を整えることができるならば、子どもが主体的に運動に取り組むようになるのではないか。

〈仮説3〉
運動や体力づくりにかかわる情報を家庭や地域と共有したり、地域の運動素材を積極的に活用したりするならば、運動の生活化が図られるのではないか。

研究の視点

視点1：技の構造や系統をもとにした指導法の工夫

- (1) 感覚をつかむ動きを取り入れた導入の工夫
- (2) 課題と見通しをもたせるための技の構造や系統の明確化
- (3) より安定した技、発展した技に高めていく場の工夫
- (4) 自他の高まりを共有・実感する振り返りの工夫
- (5) 地域スポーツ人材派遣の活用

視点2：運動や遊びに取り組む機会や環境を整える

- (1) 身体力テストによる子どもの体力の実態把握とその生かし方
- (2) 一校一運動（なわとび運動）の取組
- (3) 標準の工夫

視点3：運動の生活化を促す取組

- (1) 「朝日スポーツカレンダー」の活用
- (2) 一家庭一運動の充実

「成就感・達成感」の捉え方

「もう少しでできそうだ！」（過程）

成就感・達成感 ← できた！

「もう少しでできるかもしれない」（結果へつながる向上感や期待感）

「主体的に運動に取り組む」

- ① 楽しい目標をもつ
- ② 課題を明らかにする
- ③ 見通しをもつ
- ④ 練習・学び合いを工夫する
- ⑤ 学びのよさを実感する



① 課題・目標を明らかにする



② 課題を明らかにする



③ 見通しをもつ



〈仮説1〉に関する授業の実践

(1) 感覚をつかむ動きを取り入れた導入の工夫



運動量の確保
主運動へつなげる動機付け

(2) 課題と見通しをもたせるための技の構造や系統の明確化



技をイメージ化する→ 目標の焦点化

(5) 地域スポーツ人材派遣の活用



(3) より安定した技、発展した技に高めていく場の工夫



仮説1の視点

- 動きの感覚（コツ・かん）を豊かに育む教師の手立て
 - ・ 主運動につながる感覚づくりの在り方
 - ・ 目標や見通しのもたせ方
- 子ども同士の学び合い
 - ・ 言語活動を活用した学び合い
 - ・ 身振り手振りでの伝え合い
 - ・ グループでのタブレットやホワイトボードの活用

(仮説2) 体育環境の設営



一校一運動(長縄大会)

朝日スポーツカレンダー（2年生）

月	シーズンおすすの運動	身体づくりの観点
1	(学校行事) + 体育の学習 (地域行事) + 家庭生活 うでむねじゃんけん、ゆりかご、タイヤとび、うきぶこ	知覚・運動
4	*マット遊び スキップ、公園遊具	運動
5	*リズム遊び、節分福笑い遊び、鬼道 *インフルエンザ・咽頭炎予防	運動
6	*水泳学習、跳の運動	運動
7	(水泳学習) (水泳記録会) (大前準備会) カジヲ体操、八月餅り、なわとび	運動
8	(子ども総合運動大会、(福)餅り、(福)餅 + 肺中症の予防	運動
9	親子すもも、スタートダッシュ走、大また走 (運動会練習) (十五夜相撲)	運動
10	スキップ走、大また走、踏み切りジャンプ、立ち幅跳び (運動会)、*とび箱遊び (上り体位補助運動会)	運動
11	足湯祭、地陣取り、こうもりおり *鉄棒遊び、ボール投げゲーム (市民体育祭)	運動
12	*竹馬遊び (上方科独りジョギング大会)	運動

公開授業及び分科会の様子

《研究授業風景、分科会・全体会》



分科会で出された成果（○）と課題（△）

- 感覚づくりは素晴らしかった。運動量の確保や主運動につながるコツ・かんを育てられる。また、様々な場も設定されておりよかった。
- グループ内でのアドバイスや声かけもよく行われていた。
- 普段からの学級経営の温かさが伝わる授業だった。
- △ 異質グループを基本にすることで、学び合いが深まるのではないかな。
- △ 場を作り変えることが時間のロスにつながるのではないかな。

(仮説3) 一家庭一運動の様子

